

平成30年市議会9月会議の開会にあたり、最近の市政の状況と提案いたしました諸議案につきまして、その大要をご説明申し上げます。

はじめに、今年の白山は、例年以上に色とりどりの希少な花々が一斉に咲き誇り、多くの登山者で賑わっております。私も、台風の影響が心配されましたが、先月8日から9日にかけて、白山登山に臨んでまいり、室堂では白山商工会議所の皆様や市の新規採用職員と語り合う貴重な時間を持つことができました。また、翌早朝には、「御前峰」から、雲海のかなたに美しく輝くご来光を臨むことができ、その神秘的な大自然の光景にそれぞれが畏敬と感謝の心を抱き、その感動を共にいたしたところであります。この白山の雄大な絶景をより多くの市民の皆様にも体験していただきたいと思ったところであり、同時に、「ふるさと白山」の自然と恵みを次の世代へ大切に引き継いでいかなければならないとの思いを新たにいたしたところであります。

さて、今年は、37年ぶりの大雪に続き、6月に大阪北部地震、7月には西日本豪雨など、想定を超える自然の猛威が、日本各地に甚大な被害をもたらしました。多くの尊い人命が犠牲となり、お亡くなりになられた方々に対しましてご冥福をお祈りいたしますとともに、被害に遭われた皆様に心からお見舞いを申し上げる次第であります。また、被災地の一日も早い復興・復旧をお祈り申し上げます。

6月の大阪北部地震では、通学中の小学生が学校の倒壊したブロック塀の下敷きになる痛ましい事故が発生いたしました。本市でも、直ちに学校を含む公共施設におけるブロック塀の総点検を実施いたしました。その結果、法令の基準に満たないと判断した17か所について、取壊し等の対策を講じるものであり、加えて、道路に面し倒壊等の危険性のある個人又は法人が所有するブロック塀の撤去費に対し、新たに補助制度を設けることとし、今会議にそれぞれ所要の経費について補正予算をお願いするものであります。なお、通学路につきましても、学校やPTAの皆さ

んにご協力をお願いし、調査を実施いたしましたところでもあります。

また、7月の豪雨では、気象庁が「数十年に一度」として最大級の警戒を呼びかけましたが、岡山県、広島県、愛媛県など、西日本を中心に河川の氾濫による浸水や土砂崩れ等が多発し、平成最悪の豪雨災害となりました。

本市におきましても、白山ろく地域を中心に雨が降り続き、7月5日早朝に土砂災害警戒情報が発表され、直ちに災害対策本部を設置するとともに、鶴来地域と白山ろく地域において、自主避難所を開設し、地域住民に注意喚起を行い、日中の早い段階での避難を呼びかけ、安全確保に努めたところでもあります。なお、白山河内観測所では、48時間降水量が1976年の観測開始以来、最大となる346.5ミリを記録いたしました。市内の一部道路において小規模な冠水や法面崩落等が発生いたしましたが、幸いにも大きな被害には至らなかったものであります。

豪雨の後は一転して、最高気温が連日30度を超える猛暑が続き、県内でも7月の平均気温が歴代最高を記録するなど、最も暑い夏となりました。

全国各地で熱中症による救急搬送や事故が相次ぎ、愛知県豊田市の小学校では、校外学習を終え学校に戻った児童が熱中症で死亡いたしました。予想を遥かに超える猛暑は、命をも奪う危険があり、子どもたちの学校での健康被害に対する対策を早急に講じることが必要となっております。幸い本市では、これまで小中学校のエアコン整備を進めてきており、来年度には、全小中学校の普通教室への設置を完了する予定であります。今後とも、安全で快適な教育環境の推進に努めてまいります。

近年のこうした異常気象等に伴うこれまで経験したことのない自然災害は、本市においてもいつ起こるか分かりません。日ごろからの備えはもとより、防災意識の普及啓発や防災訓練の実施、そして何よりも迅速かつ的確な判断と情報の伝達が重要であり、引き続き、災害等の備えに万全を期してまいりたいと考えております。

それでは、最近の市政の状況についてご説明申し上げます。

はじめに、我が国の経済情勢等についてであります。

政府は、6月15日、経済財政運営の指針となる「骨太の方針」を閣議決定し、来年10月から消費税率を10%に引き上げる方針を明記するとともに、増税に伴

う消費の落ち込みを防ぐ対策の必要性を強調する一方、財政健全化目標の達成時期を、従来よりも5年遅い2025年度に先延ばしをいたしたところであります。また、予算編成にあっては、地方の安定的な財政運営に必要となる一般財源の総額について、2018年度と実質的に同水準を確保するとの方針が示されておりますが、引き続き、地方交付税をはじめとする地方財政に係る制度改革など、国の動向に注視しながら、行財政運営に努めてまいります。

北陸地域の景気につきましては、北陸財務局が先月29日に発表いたしました経済調査では、8月の総括判断を「緩やかに拡大しつつある」とし、公表が始まって以来初めて「拡大」の表現が用いられたところであります。先行きにつきましても「雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに拡大することが期待される」とされており、引き続き、地域経済が活気づくことを大いに期待いたしているところであります。

このような経済情勢のもと、本市の財政状況についてであります。平成29年度の一般会計決算につきましては、税収が過去最高の197億円台となり、実質収支で約10億円余を本年度に繰り越すことができました。財政健全化判断比率につきましては、「実質公債費比率」は前年度より0.2ポイント改善し10.8%に、「将来負担比率」は前年度より2.7ポイント改善し125.3%となり、共に早期健全化基準を下回っており、健全な財政運営が維持できております。引き続き、経費の節減や市税収入の安定確保に積極的に取り組むとともに、持続可能で揺るぎない行財政基盤の確立に努めてまいり所存であります。

次に、国連が提唱する2030年までの持続可能な開発目標「SDGs」の取り組みと推進についてであります。

国におきましては、「SDGs」の達成に向けて、地方自治体の率先した取り組みを推進し、地方創生に向けた日本の「SDGsモデル」を構築していくことといたしております。去る6月15日に、内閣府が公募しておりました「自治体によるSDGsの達成に向けた取り組みの提案」について、選定結果の発表があり、本市が提出しておりました「白山ユネスコエコパーク及び白山手取川ジオパークの理念に基

づき、環境に調和した経済発展や豊かな生活の確立を目指す」事業提案が、優れた取組みとして高く評価をいただき、本市を含む29都市が「SDGs未来都市」として選定されたところであります。また同日に、総理官邸において、安倍内閣総理大臣をはじめ、菅官房長官、河野外務大臣、梶山地方創生担当大臣等がご臨席のもと、「SDGs未来都市」選定証授与式が執り行われ、内閣総理大臣から直接その選定証を授与されました。本市にとりまして、大変光栄なことであり、嬉しく思う次第であります。

今後、「SDGs未来都市」として、国内外の模範となるよう取組みを進めていくために、まずは本市の取組みはもとより、市民、大学、企業等と連携した取組みが重要であることから、SDGsの理解を深めるための研修会や普及啓発活動、基本計画策定等に係る所要の経費について、今会議に補正予算をお願いするものであります。

また、この事業提案の理念ともしております白山手取川ジオパークの活動につきましては、今月8日からイタリアの「アダメロ・ブレンタ ジオパーク」で開催されるユネスコ世界ジオパーク国際大会に市職員を派遣することといたしております。世界各地から多くのジオパーク関係者が一堂に集まるこの機会に、「防災と恵み」をテーマとしたジオパーク活動の事例発表を行い、積極的なネットワーク活動を展開させてまいります。こうした白山手取川ジオパークの活動とSDGsの取組みが相乗効果を生み、世界認定への弾みになることを期待するものであります。

次に、白山総合車両所等を活用した観光・産業振興についてであります。

自由民主党の「新幹線車両所の活用による観光・産業振興プロジェクトチーム」の中間とりまとめに記載されております「白山総合車両所周辺のビジターセンターの整備」、「(仮称)西松任駅の新設」、「加賀笠間駅のリニューアル」などの項目について、現在、自由民主党プロジェクトメンバーを中心に協議が進められているところであります。

これを受け本市では、本年度、地方創生推進交付金の採択をいただいている「ビジターセンターの基本計画・基本設計」、「(仮称)西松任駅の概略設計」、「3

市1町観光プラン」の3件の策定業務について、経験豊富なコンサルタントに委託したところであり、それぞれの策定業務を進める中で、引き続き、本市にとって最善の結果が得られるよう、自由民主党プロジェクトチームの議論に積極的に関わってまいりたいと考えております。

また、先月2日に「白山市地域公共交通協議会」を設立し、本市の公共交通の現状と課題を踏まえ、並行在来線を含めた鉄道、バス、タクシー等の多様な交通機関による持続可能な公共交通網の形成を目的として、「地域公共交通網形成計画」の策定にも着手いたしたところであります。今後とも、議員各位におかれましても、絶大なるご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

次に、「歩行者保護モデル路線」の指定についてであります。

本市と白山警察署との間で、去る7月17日に、県内で初めて締結いたしました「歩行者保護モデル路線の設置・推進に関する協定」は、歩行者事故が多い松任駅北口から千代野東五丁目までの約2.1kmの市道を「歩行者保護モデル路線」として指定し、交通事故対策に連携して取り組むものであります。昨年の白山警察署管内での交通事故は、その多くが夜間に横断歩道を渡っている際に起こっており、いずれも反射材を身に着けていなかったことから、モデル路線では、注意看板の設置や注意喚起の路面表示に加え、町内会等関係団体とも連携し、歩行者への反射材の着用徹底を呼びかける活動を展開してまいります。地域全体で、歩行者とドライバーの双方に対して、交通事故防止の意識の高揚を図ってまいりたいと考えております。

また、「歩行者保護モデル路線」に面しております松任駅北口広場の駐車場におきましては、長時間の駐車等が多く、本来の目的であります送迎等の利用に支障が出ておりますので、30分間無料の市営駐車場として整備するため、出入口に料金ゲートを設置することとし、併せて、自転車通勤・通学者の利便性の向上を図るため、新たに松任駅北口駅舎の西側に自転車駐車場を整備するための実施設計を進めるものであり、今会議にそれぞれ所要の経費について補正予算をお願いするものであります。

次に、多文化共生の推進についてであります。

先月1日、松任文化会館が松任駅周辺のシンボリック施設として生まれ変わりました。その2階に、移転リニューアルしました国際交流サロンは、明るく開放的な雰囲気となり、日本語教室や世界の文化を学ぶ講座、異文化に触れ合う多彩な交流活動などに利用されております。

その移転リニューアル記念事業として、8月4日から31日まで、旧松任市の国際交流員として活躍されておりました尾谷くみさんのアメリカの多様性からみる写真展「愛・平和・人権」を開催いたしました。様々な文化を持つ人々の風景や日常生活を撮影した作品の一枚一枚に込められた尾谷さんのメッセージからは、人と人のつながりの大切さが強く伝わってまいります。この写真展は、今日から美川コミュニティプラザふれ愛に場所を変え、今月末まで開催されておりますので、ぜひ多くの皆様にご鑑賞いただきたいと思っております。

また、写真展の初日にグランドホテル白山で開催しました「多文化共生フォーラム」では、昨年、市特別表彰を受けられた元外交官の寺田輝介氏に、豊富な経験談を交えて基調講演をいただくとともに、パネルディスカッションでは、昨年8月より赴任しております本市のダニエル・ヘリオット国際交流員と内灘町、津幡町の国際交流員、そして尾谷さんがパネラーとなり、日頃の活動体験等を通して、国際交流員の視点から活発な討論が行われたところであります。

国籍等の異なる人々が、互いの文化的な違いを認め合い、地域社会で共に生きていく「多文化共生」の考え方もまた、SDGsの「誰一人取り残さない」という理念に合致するものであり、今後とも多文化共生の地域づくりを推進してまいりたいと考えております。

次に、白山・白川郷100キロウルトラマラソンについてであります。

今月9日に開催いたします第6回白山・白川郷ウルトラマラソンにつきましては、今年は100キロコースのみの実施とし、1,123人のランナーがエントリーをいたしております。昨年に引き続き「世界遺産・ジオパークシリーズ」として、雄

大な自然を背景に、山・川・海、全域を駆け抜ける標高差1,450メートルのダイナミックなコースは、世界遺産「白川郷」と「白山手取川ジオパーク」の魅力を十分に堪能いただけるものと思っております。なお、今年は、昨年よりも給水所の数を増やし、霧状のミスト扇風機を設置するなど、暑さ対策にも配慮し、当日は、ボランティア、スタッフ、約1,000人が万全の態勢で運営にあたることといたしております。心のこもった「おもてなし」で皆様をお迎えしたいと思っております。

次に、白山開山1300年記念事業についてであります。

7月7日から、白山一里野温泉スキー場において、3万個のLEDライトが彩る「灯りをつなぐ1300年」を実施いたしております。多くのボランティアの方々に一つひとつ設置いただきましたイルミネーションは、加賀禅定道をイメージした虹色から、手取川の水をイメージした青色に変化する演出となっており、この夏も、多くの皆様に幻想的な空間を楽しんでいただいているところであります。また、今年は、地域の方々が立ち上げた「一里野イルミネーション盛り上げ実行委員会」による飲食・物産テントの設置や「音と光のアンサンブル」といった多彩なイベントも実施され、さらなる賑わいの創出につながったのではないかと考えております。このイルミネーションは今月末までとなっておりますので、さらに多くの皆様にぜひご覧いただきたいと思っております。

次に、この秋に向けて、「江戸伝統芸能の夕べ」「福祉健康まつり」「白山総合車両所一般公開」「美川里海きときと祭」「ほうらい祭り」などの様々な行事が各地域で順次開催されます。市内の各地域には、豊かな自然を背景に、多様で個性豊かな歴史、文化、産業など魅力ある地域資源が今なお息吹いており、こうした地域資源を本市の最大の魅力として、地域の皆様の熱意とともに、しっかりと発信してまいりたいと考えております。

また、この秋の「マルシェ・ドウ・ハクサン」は、来月14日、道の駅「めぐみ白山」で開催いたします。道の駅「めぐみ白山」には、4月のオープン以来、先月

末までに222, 560人の大勢の皆様にお越しいただいており、安全・安心の朝採れ野菜や旬の果物をはじめ、期間限定メニューや多彩なイベント等にご家族揃って楽しんでいただいているところでもあります。当日は、多くの皆様に海から山までの「秋の味覚」を「マルシェ・ドウ・ハクサン」と道の駅「めぐみ白山」の両方でご堪能いただきたいと思っております。

さらに、来月20日と21日に、松任文化会館及びその周辺で開催する「いいところ白山フェスタ」は、女優の釈由美子さんをお迎えして白山の魅力についてお話いただく「白山フォーラム」や白山の魅力を「見て」「食べて」実感していただく「白山マーケット」など、参加する人たちが「白山」を身近に感じ、世代を超えて「私たちの白山」と思えるような企画といたしております。多くの皆様のご来場をお待ち申し上げますとともに、本市の「いいところ」を次の100年につなげていくため、皆様と一緒に盛り上げてまいりたいと思っております。

次に、東京オリンピック事前合宿誘致に向けた取組みについてであります。

去る7月20日から27日までの8日間、ポルトガル男子トランポリンチームが8月3日から5日にかけて群馬県で開催されたトランポリンワールドカップ前橋大会に出場のため、本市に滞在し、松任総合運動公園体育館で事前合宿を行ったところでもあります。

滞在中は、ロンドンオリンピックやリオデジャネイロオリンピックに出場経験のある選手を含む3名の選手、コーチ、理学療法士の計5名のチームの皆様には、本市の子どもたちとの交流事業や文化体験事業に参加をいただきました。また、公開練習で、市内トランポリンクラブの小中学生を前に、世界のアスリートの技を披露いただいたところであり、ジュニア選手の育成と競技力の向上にもつながったものと思っております。

なお、トランポリンワールドカップでは、男子個人の部で2名の選手が上位入賞を果たしており、来年の世界選手権、2020年の東京オリンピックに向けてさらなる活躍が期待されるところであります。

今後とも、ポルトガルチームとのつながりを一層深めるとともに、県と連携を図



りながら、東京オリンピック事前合宿誘致の実現を目指し、受入れ態勢を整えてまいりたいと考えております。

次に、国指定史跡「東大寺領横江荘遺跡」についてであります。

横江荘が東大寺に寄進されて1200年目を迎えるにあたり、来たる10月14日、大阪歴史博物館の栄原永遠男館長をはじめ、日本古代史の専門家の方々を講師に招き、市民交流センターで「立荘1200年記念シンポジウム」を開催いたすこととしております。

また、地元地区におきましても1200年前のいにしえに思いを馳せ、この秋収穫した古代米を横江荘ゆかりの東大寺へ献納するプロジェクトが現在進められております。今後とも、横江荘遺跡の価値を再認識するとともに、地域と行政が一体となって史跡の普及啓発と保存・活用に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、施設整備事業の進捗についてであります。まず、子育て環境の充実では、入所児童の増加等に適切に対応するため、保育所及び放課後児童クラブ等の増築や改修を計画的に行っているところであり、「双葉保育所」及び明光小学校区の「ピノキオクラブ第3」につきましては、実施設計を終え、速やかな工事着手に向け進めております。また、「千代野保育所」につきましても、来年度に大規模改修工事を実施するため、現在、実施設計に向けて準備を進めており、「わかば保育園」につきましては、隣接地において改築することとし、今会議に用地測量及び造成設計のための所要の経費について補正予算を計上いたしております。

また、子どもたちが安全で安心して学べる良好な学校整備につきましては、現在、大規模改造工事を行っている「石川小学校」、「笠間中学校」、「北辰中学校」の各校舎について、10月下旬の完成に向け、工事の進捗を図っているところであります。なお、笠間中学校におきましては、身体の不自由な生徒が学校内を自由に移動できるよう、今年度内にエレベータを設置し、バリアフリー化を図るとともに、「第一体育館」の大規模改造工事につきましても、授業などに配慮しながら、今年度内のなるべく早い時期に工事が完了するよう努めてまいります。

次に、工業団地の整備についてであります。現在造成工事を行っている山島工業団地第2期分譲地は10月末に完成いたします。完成次第、引き渡しを行うこととしております。なお、山島工業団地の分譲が順調に進んでいることから、今後の新たな企業進出の受け皿となる工業団地の整備が急務となっており、新工業団地整備に向けた基礎調査費等について、今会議に補正予算をお願いするものであります。今後とも、県や関係機関との連携を図り、積極的な誘致活動を展開してまいりたいと考えております。

それでは、提案いたしました諸議案について、ご説明申し上げます。

提出案件は、決算認定12件、補正予算案3件、条例案2件、事件処分案4件、報告案件2件の計23件であります。

はじめに、議案第63号から第74号までの平成29年度の一般会計をはじめとする12会計の決算についてであります。

まず、一般会計につきましては、先ほど申し上げましたとおり実質収支で約10億円余を繰り越すことができたところであり、国民健康保険などの特別会計及び水道事業会計などの企業会計につきましては、それぞれの事業の目的に沿い、適切な執行に努めた結果、概ね堅実な決算を結ぶことができました。これもひとえに、議員各位をはじめ、市民の皆様のご理解、ご協力の賜物と深く感謝を申し上げる次第であり、今後とも、市民生活の安全・安心を最優先に、多様な行政需要に的確に対応する一方、健全な財政運営に努めてまいり所存であります。

次に、議案第75号から第77号までの平成30年度補正予算案についてであります。まず、一般会計につきましては、補正予算額7億2,400万円余となるものであります。その主なものといたしましては、総務費では平成29年度決算剰余金の二分の一相当額として、5億1,700万円余を財政調整基金へ積み立てるほか、SDGs推進事業費などを計上するものであります。また、民生費では、わかば保育園改築に伴う用地測量費及び造成設計費などを計上し、衛生費では、老朽化

した新中宮温泉ろ過機の修繕費などを計上いたしております。さらに、労働費では、中小企業退職金共済制度への加入促進助成金を計上し、農林水産業費では、県営土地改良事業負担金などの追加補正を行うものであります。また、土木費では、松任駅北口広場の市営駐車場整備に伴う料金ゲート設置に係る経費などを計上し、教育費では、松任小学校プールのブロック塀撤去に伴う目隠しフェンスの設置及び小学校等の安全強化調査に係る所要の経費について補正を行うものであります。

特別会計につきましては、介護保険特別会計において、介護給付費準備基金への積立金などを計上し、工業団地造成事業特別会計では、先ほど申し上げました新工業団地の整備に向けた基礎調査費等を計上するものであります。

次に、議案第78号及び第79号の条例案について、ご説明申し上げます。

「白山市営駐車場条例の一部を改正する条例」につきましては、新たに市営松任駅北口駐車場を設置することに伴い、関係規定を改正するものであり、「白山市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例」につきましては、当該基準を定める省令の一部改正に伴い、関係規定を改正するものであります。

次に、議案第80号から第83号までの事件処分案につきまして、その主なものをご説明申し上げます。

「財産の取得」につきましては、白山一里野温泉スキー場駐車場の除雪の用に供する除雪ドーザ1台を購入するため、また、「平成29年度白山市水道事業会計未処分利益剰余金の処分」につきましては、未処分利益剰余金を処分し、資本金へ組み入れるため、及び建設改良積立金に積み立てるため、それぞれ議会の議決を求めるものであります。

次に、報告第14号及び第15号の報告案件について、ご説明申し上げます。

「平成29年度決算に基づく健全化判断比率及び公営企業決算に基づく資金不足比率」につきましては、地方公共団体の財政の健全化に関する法律の定めにより、

また、「一般財団法人白山市地域振興公社の経営状況」につきましては、地方自治法の定めにより、それぞれ議会へ報告するものであります。

さて、振り返りますと、平成26年11月に多くの市民の皆様の信託を受け、白山市長の重責を担うこととなりました。就任以降、ひたすら市民の幸せを第一に考え、「対話と参加」を基本とした市民に開かれた身近な市政運営に努力をいたしました。また、地域の皆様や各種団体の代表の皆様にご参加をいただき、毎年開催してきました「まちづくり会議」はもとより、様々な機会に直接出向き、貴重な生のご意見・ご提言を拝聴しながら、一つひとつの施策に、誠心誠意、取り組んでまいりました。今日まで職務に邁進できましたのも、市議会の皆様をはじめ、市民の皆様のご理解とご支援の賜物であり、改めて深く感謝を申し上げる次第であります。

特に、今後10年間を見据える中で、人も自然も産業も全てが「健康」「笑顔」「元気」であることを強く願い策定した「第2次白山市総合計画」は、昨年4月のスタートより皆様のお力添えもあって順調に進捗し、市のバロメーターでもあります人口は、緩やかではありますが着実に増加を続けております。これまで推し進めてきました施策の効果が、確実に現れているものと思っております。

また、本格的な人口減少社会に対応すべく、国が唱える地方創生の考え方に呼応し、平成27年10月に「白山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定いたしました。本市の持続的発展を目指し、総合計画の推進に合わせ、一体的かつ総合的に取り組んでいるところであります。

また、本市を次の段階へと飛躍させるために、重点的に取り組んでおります「白山総合車両所等を活用した観光・産業振興」、「白山手取川ジオパークの世界認定」、「市民協働のまちづくり」などの施策につきましても、その実現に向けて、さらに取組みを強めてまいります。

併せて、世界共通の目標である「SDGs」の視点を新たに取り入れるとともに、これまで以上に市民生活に密着した各種施策を確実に充実させることが、11万市民が将来に渡って安心して住み続けたいと思える「健康で笑顔あふれる元気都市

白山」の実現につながるものと確信いたしております。

一層のご理解とお力添えをお願い申し上げる次第であります。

以上をもちまして、9月会議に提出いたしました議案の説明を終わりますが、何卒慎重にご審議の上、適切なるご決議を賜りますようお願いいたします。